

- 令和6年度定例総会開催
- 新渡戸家のルーツを訪ねて
- 一本の水路がはぐくむ私たちのふるさとに参加して
- 第一回 資源回収

消費者の会だより

発行
十和田市消費者の会
十和田市西十二番町6番1号
TEL (51) 6783
FAX (23) 5571

令和6年度 十和田市消費者の会 定例総会

令和6年4月24日（水）市民交流プラザ（タワーレ）

会長 鈴木 盛治

市長祝辞

代読：副市長 北館 康宏

消費者の会の総会は、官庁街の桜が満開の頃が、通例となっていました。今年も、満開も2～3日前に終わり、葉桜となってしまいましたが、久しぶりに官庁街も人の賑わいがありました。



今年も、全国的に、海外からの観光客もコロナ禍前よりも回復との事、十和田の街も賑わいを見せる事と存じます。

存じます。

さて、令和6年度総会も、ご多忙の中来賓として、十和田市副市長北館康宏様、十和田市商工会議所 専務理事 櫻田一雅様、十和田市町内会連合会長 升澤博也様始め、民生部長 佐々木一夫様、そしてまちづくり支援課職員の皆様にお越し頂き、会を代表致しまして厚くお礼申し上げます。

又、会員の皆様におかれましては、ご多忙の所ご参加して頂き感謝申し上げます。

昨年度を振り返ってみますと、新型コロナウイルスもいづらか落ち着き、平常な活動に戻ることができ7月には、農林水産省東北農政局より石川和彦農政推進官をお招きして【みどりの食料戦略の講演会】を開催し、食品ロス等の話を聴く事が出来又例年通り、資源集団回収（リサイクル）や安心・安全展では、会員からの再利用できる衣類や食器類等寄贈品を販売（リユース）などの事業ができ、又青森県消費者大会や『消費生活大学講座』に参加し、十和田市内におきましては、十和田まちづくりの原点であります、稲生川の歴史研修や十和田市上下水道課のご協力を頂き、上下水道施設見学会など又会員対象に料理教室や『消費者だより』の発行など会員の関係者には、多忙な一年となりました。

そのような中で、前沖澤室長さん始め理事の皆さんの献身的な活動に対しまして、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

令和5年度の事業実施内容報告につきましては後程、担当理事の方から説明させていただきます。

今年度も、『公共性の事業』と『消費者の会独自の事業』との組み合わせで、事業計画の作成を致しました。

会員の皆様のご理解を頂きながら、今年度も事業計画を実行していきたいと考えております。ご協力の程宜しくお願い致します。

最後になりましたが、総会が無事滞りなく終了致しますことをお願い致しまして、挨拶とさせていただきます。名水保全対策協議会が解散し、外郭団体5団体となりました。そして、総会終了後の懇親会には、久しぶりに22名の方が参加下さいまして、懇親を深めることになっております。

最後になりましたが、総会が無事滞りなく終了いたしますことをお願い致しまして挨拶とさせていただきます。

貴会におかれましては、消費についての正しい知識の普及や消費生活の向上を図るための研修会の実施、また地産地消の推進やリサイクルの普及啓発活動を通じて、当市の消費者行政の推進にお力添えを賜り、深く感謝を申し上げます。



商品や通信サービスが多様化している現代、悪質な訪問販売や勧誘行為、契約及び取引などに関するトラブルが大きな社会問題となっています。

当市においても、老人ホームへの入居権に関する勧誘電話や実在する大手企業の名を騙ったフィッシングメールが配信されるなど、消費者に大きな不安を与える事案が発生。

当市における特殊詐欺やそれに関する相談件数は令和5年の「特殊詐欺」被害は11件で、被害額はおよそ1,030万円となっており、前年と比較すると被害額はおよそ920万円減ったものの、件数が9件も増加しており、中には年々被害額が高額となるケースも増えてきています。

加えて、令和5年度の当市の消費生活センターにおける相談件数は421件、過去最多を記録。

市としても、被害の未然防止に向け、消費生活センターでの相談対応や、市広報等での注意喚起に努めるほか、高齢者を狙った特殊詐欺や悪質商法に対しては、金融機関及びコンビニエンスストアにも協力を依頼しながら見守り体制を強化しているところ。引き続き、貴会をはじめとする関係機関とも連携し、取組を進めて参りたい。皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

新渡戸家のルーツを訪ねて

六郷町内会 上坂 広

6月11日に消費者の会の活動に参加して来ました。

三本木開拓幻の穴堰パート3と題して、「新渡戸一族のルーツを探る」に同行、今年度は開拓事業の先人、その中心人物であった新渡戸十次郎の生誕地である花巻新渡戸記念館と新渡戸一族の盛岡先人記念館を視察しました。



午前8時に出発し車内では新渡戸十次郎「開拓開業まちづくり」顕彰会、主宰である奈良哲紀氏から今回の先人たちを詳しく説明していただき、とても引きこまれました。また参加者からも質問があり、花巻に到着し、新渡戸記念館の視察を行い、その記念館にあった家系図が目飛び込んできました。

時の人である新渡戸稲造の父が十次郎であることが分かり驚きました。

若い時の稲造の生涯も良く分かりました。その後花巻の宿に進み、奈良先生より浴場で大変良い事に気付いたと話を聞きました。それは、短歌の選定員に十次郎の名前が書かれており、また、宿泊日は、十次郎の誕生日である事に再度驚きました。



翌日は、盛岡にある先人記念館を視察しました。途中で新渡戸基金藤井理事長が同乗し記念館に着きました。

記念館では、明治以降に活躍した盛岡ゆかりの先人130人を紹介していると聞きとても多い人数と思いました。館内では藤井理事長と学芸員に説明を頂き新渡戸稲造以外にも素晴らしい人材がいるのだと、感心いたしました。再度来てみたいと思いました。

奈良先生又藤井理事長様には、大変ご苦労様でした。ありがとうございました。



又参加者全員に奈良先生の著書「新渡戸十次郎パラダイム～時空をこえて今を参考に～」という事で配布をいただき私の資料にしたいと思いました。

会員以外の参加を呼び掛けた消費者の会の皆様にお礼申し上げます。

新渡戸十次郎『開拓開業まちづくり』顕彰会

主宰 奈良哲紀

世にはこんなことも まさかの体験

この旅路の前日まで、ずーっと何か心に引っかかっていた。まさかの6月11日。なんと、この日は十次郎の「誕生日」だったので。気づいたのは、まさにその前日。訪ね歩く優先事項には、墓参をも設定していた訳で、誰かの配慮のなせることか、と思いきや全くの偶然でした。

もう一つのエピソード。旅路が始まって二日目、習慣づいている早朝未明の起床。旅先に特有の雰囲気誘われての入浴タイム。静寂をはらんでゆらゆらと湯気がたちこめていた。湯船に冷えた体を沈め目を凝らして見ると煙る湯気のなかにどこか見覚えのあるタッチの風流の絵、近づくほどにワクワクしました。

やはり、『川口月嶺』の古絵図であった。和歌4編と解説が、添えられていて、なんと5代藩主南部利剛公が、藩の名だたる文人を集めての「歌会」の場所がここだったと。

十次郎逝去の年、よもや蟄居させられ、禄高召し上げ、そして廃嫡の藩命が下され命尽きようとは、誰知る由もないことでした。

因みに、歌会撰者15代藩主南部利剛公の師匠は十次郎であったことを付記します。



数日前までは、どなたが組んだのかこんな強行な工程を、と恨み節の一つでも出そうになっていたのです。理由は、8日より10日までは、大阪で、13日からは16日の「講演準備」で大わらわになる予定の大事な週という事情を抱えていたのです。こんなことをこの研修の旅で経験しようとは思っていませんでした。稀有で有益な体

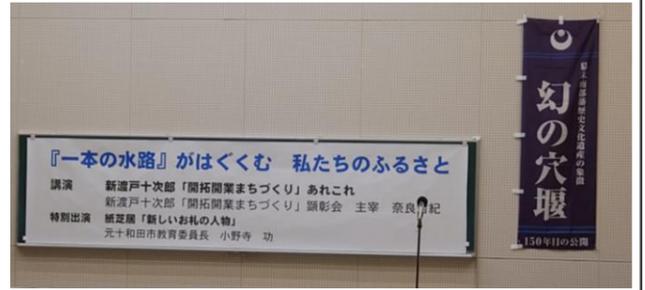
験を戴いた「幕末探訪の旅」に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

「一本の水路」がはぐくむ私たちのふるさとに参加して

理事 寺澤憲司

6月16日文化センターで行われた十和田市まちづくりの歴史を学ぼうと消費者の会会員6人で傍聴してきました。

講師は、新渡戸十次郎研究の第一人者の奈良哲紀講師です、第4研修室80名定員の部屋が満席で、いかに市民は、まちづくりに関心があるか感じられました。講演の前半は、元十和田市教育委員会 小野寺功教育長が7月3日に発行される3人の新札に関して、紙芝居で説明があり、その後新札の3人が今日の十和田に深く関係があるかを奈良哲紀講師から説明を聞き、驚く事ばかりでした。感心した事2~3特記しますと



- ① 新渡戸伝は、この三本木原に、水を引けば米が採れると発想していたが息子十次郎は、父の水引きに加えて『町を造ろうと』と奔走して、160年前に構想した街づくりの基礎となり、今日の十和田市が出来た事。
- ② この十次郎の街づくり構想を受け継いで、渋沢栄一氏



と水野棟好氏が国営事業に繋いで行った事。

- ③ 160年前頃は、七戸町など馬の産地であり、十次郎が三本木原に馬の競り市を作り良馬の産地となり、この馬の血液が沢山取れるという事で、北里柴三郎が三本木原に北里研究所ができ、後の北里大学設立に繋がっていく事。
- ④ 十次郎の三男稲造が津田梅子女史と東京で学問を通じて交流があり、『稲造おじさん』言われるほどであり、梅子女史が亡くなった



時は、30分もの長い弔辞を読んだ事。等講演を聞き、驚くばかりでした。その十次郎が、第2の稲生川を掘る途中47歳で亡くなり、そのまま残っているのが、幻の穴堰と聞かされ、貴重な街の宝として、大切にしていかなければと感じました。十和田の街づくりをもっともっと知りたいと思っています。

6月1日 資源回収が行われました。ご協力頂いた皆様ありがとうございました

編集後記

年二回の消費者だよりを発刊することが出来ました。前期事業は十和田まちづくりとなった新渡戸一族のルーツを訪ねた旅行を中心に掲載いたしました。

理事 寺澤 憲司 三浦 栄子